

# 「辺野古反対は圧倒的民意」



## 知事、首相に伝達

### 初会談で政府けん制

【東京】翁長雄志知事と安倍晋三首相の初めての会談が17日午後1時半から始まった。翁長知事が会談の冒頭で「辺野古移設の前提条件が崩れている。反対の圧倒的民意が示された」と述べ、米軍普天間飛行場の辺野古移設計画に反対し、安倍首相は「辺野古移設は唯一の解決策」と述べ、移設作業を推進する考えを示した。

会談は約30分間の予定で、冒頭のみ公開された。昨年12月に翁長知事が就任してから首相と会談するのはこれが初めて。会談には菅義偉官房長官、安慶田光男副知事も同席している。

翁長知事は辺野古移設について「16年前の県知事と市長の受け入れは軍民共用空港であるという前提で、その後閣議決定は2006年に廃止され、前提条件は崩れている」と指摘。辺野古移設に固執する政府をけん制した。

初会談を前に沖縄県の翁長雄志知事(左)と握手する安倍晋三首相。17日午後、首相官邸